

令和6年度第1回文化推進審議会 会議録

日時	令和6年8月7日(水) 16:00~17:00
場所	北館4階 教育委員会室
出席者	会長 加藤 義夫 委員 枝元 益祐 委員 岡 泰正 委員 西本 望 委員 藤田 美代子 委員 柏原 由紀 欠席委員 平井 章一、桑田 敬司、ウイルソン 恵
事務局	田嶋国際文化推進室長、竹村国際文化推進係長、田中国際文化推進課員
関係課	なし
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0 人

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題1 令和6年度芦屋市文化推進基本計画評価報告書(令和5年度実績)について

議題2 市政モニターアンケート実施結果について

議題3 次期文化推進基本計画策定に関する市民アンケート(案)について

(3) その他

2 提出資料

次第

委員名簿

資料1 令和6年度芦屋市文化推進基本計画報告書(令和5年度実績)

資料2 市政モニターアンケート実施結果について」

資料3 次期文化推進基本計画策定に関する市民アンケート(案)

3 報告事項

(事務局)

《報告事項説明》「人事異動および組織改正について」

4 事務局挨拶

5 議題説明

(加藤会長)

事務局より議題1の説明をお願いします

<企画部国際文化推進室長より議題1説明>

(加藤会長)

ありがとうございました。事務局よりご説明をいただきましたが、何かご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(西本委員)

8頁、2 未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進の2 新規・拡充検討項目に関する進捗状況の3つ目、<外国人児童生徒等の日本語習得支援>と、12頁、3 芦屋文化を生かした戦略的なまちづくりの2 新規・拡充検討項目に関する進捗状況の<多言語への翻訳や「やさしい日本語」による情報発信による交流機会の創出>、13頁、(1)暮らしに根ざした文化交流のまちづくりの○多言語情報配信クラウドサービスの使用開始、というところについて、芦屋市に在住されている外国人に配慮されていることは非常に良い試みだと思います。

児童・生徒の日本語習得の支援のほかにも、大人に向けての日本語習得支援も何かあったかと思いますので入れておいていただければと思います。公民館審議会でその話が出ていたかと思いますが、大人の方への支援についても入れていただきたいと思います。多言語の情報発信は非常にありがたいと思います。

日本語指導について、海外出身の方々の民族的文化を言語も含めて尊重してそれを

広げる活動をどこかでされていたかと思いますが、そのような内容もどこかに入れていただけたらと思います。

海外の方たちがそれぞれの言語や民族的部分、料理の文化をお披露目されたり、そういう活動を入れていただくなど、海外の文化を尊重しているといった部分も入れていただけたらと思います。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

日本に来られた方の日本教育だけではなく、在住の外国人の方の文化を発信するというのですが、潮芦屋交流センターで指定管理業務を請け負っている芦屋市国際交流協会（ACA）が、自主事業として月1回程度実施している海外の食文化と一緒に調理しながら体験していただく教室を開いており、様々な国の食文化を日本の方に親しんでいただきご理解いただく事業に取り組んでいます。

また、日本語を学んでいただくことは必要ですが、母語を大切にしないといけないということで、子どもを対象に中国語、英語で母語教室を実施しています。

(西本委員)

是非ともお願いします。海外の方にやさしい芦屋市というのをに入れていただけたらありがたいです。

(枝元委員)

私が誤解していたら違うとっていただきたいのですが、外国人の児童・生徒の日本語習得支援という言葉だけを聞いてしまうと、いわゆる外国人を対象とした日本教師の資格の講座をやっていると見えてしまったのです。子どもたちが日本語を習得するにあたり、障壁となっているところをどうやって取り除くか、という意味で、分かりやすい日本語の習得ということで、どこかに項目があったかと思いますが、そのようなものをイメージしてしまいました。そのイメージは間違いだということでしょうか。

(事務局)

そうですね。

(枝元委員)

はい、わかりました。

(柏原委員)

おっしゃっていただいているように、国際理解教育推進事業については学校教育で所管ですが、外国にルーツのあるお子さんが転入してこられた際、まったく日本語が話せない状態で来られることも多くあります。そのため、授業もままならないところがありますので、初期日本語指導ということで、日常生活、学校生活に不安が大きい状況を、少しでも日本語を習得いただくことで、馴染んでいただくことを目的とした事業です。先ほど室長から申し上げましたように、事業のうち拡充した内容を記載していますので、この点について補足させていただきます。

(枝元委員)

わかりました。ありがとうございます。

(岡委員)

事業No.6のワンコインシアターというのは、言葉で聞くとすごく魅力的な催しですが、どこでやられたのですか。

(事務局)

こちらは上宮川文化センターで実施しております。

(岡委員)

何人ぐらいが入るんですか。

(事務局)

ホールがありまして、100人程度は入ると思います。

(岡委員)

ここは、音楽やサスペンスと書いてありますが500円ですね。参加者は、100人中50人とか30人とか常連がいるとかですか。

(事務局)

上映する内容によって参加者は変わったりすると思います、平和などがテーマである場合は、そういったことを特に大事にされている方が参加されていると思います。

(岡委員)

フィルムではなくビデオか何かですか。

(事務局)

DVDです。

(岡委員)

試写室のような感じの雰囲気なんですかね。

(事務局)

ちょっとした小さなホールで、小さい講堂のようなところです。

(岡委員)

すごく魅力的な事業なので、もっと宣伝すればいいのと思ったのと、美術館協議会と関わっているのですが、美術館とうまく連携できないか、催し物と併せられないかと考えたんですが、単発でやっているのは非常にもったいない感じがします。

これも質問となりますが、文化ゾーンの図書館、谷崎潤一郎記念館、美術館に芦屋の方が行かれるときは通常徒歩ですか。

(事務局)

徒歩だと思います。駐車場もありますが、三館連携の「niwa-doku」や「つくるば」などの催しの時でも普通の日よりは多いですが、駐車場が満車になっていないことがあります。

(岡委員)

意見なんです、神戸市から芦屋の美術博物館に行くときにいつも悩むんです。それはどのバスに乗ればいいのかからわからないです。芦屋の方はお分かりになるのだと思いますが、他市から来ると、美術博物館行きとか、行先の明示が全然ないのでわかりにくいのです。仕方ないので、暑いときや寒いときなどは結局タクシーに乗ってしまいます。文化ゾーンの活性化を図ったと書いてありますが、芦屋市として、図書館と谷崎潤一郎記念館と美術博物館をセットで考えているならば、文化ゾーンへ行くにはこのバスをご利用くださいとか、明確にバス乗り場に他市から来る人にとって分かるようにするとか。徒歩でもなかなか慣れないと行き着きにくいので、このルートについてはどうしたら簡単に行けるのだろうと思っています。文化ゾーンを活性化させるんだという気持ちと、他所から来た人達に向けてどうするのが関連していないと本当にそれは痛感するんです。歩くと今は暑くて大変で昼間は行くことができないので、映画とかワンコインのことも含めて、もう少し文化的なものをまとめられて、給食のことなどは分かりませんが、映画、美術、図書、文学というくくりでやるのであれば、もう少し大局的にアクセスを分かりやすくまとめられないかなと思います。美術館のバスはこれです、降りる時もここが美術館であるということがわからないといけないと思います。乗り場に表示などあれば良いと思います。

(加藤会長)

ここに来る前に、芦屋市立美術博物館で開催中の「信濃橋洋画研究所特別展」を見に行ったんですよ。私は阪急を利用して、芦屋川からバスに乗るのですが、行く前にホームページを調べると「緑町」で降りることは書いてあります。美術館・博物館行きのバス表示はないことはないですし、それに乗ればちゃんと行くことができます。

もっとということであれば、文化ルートを廻れるようなマップのようなものを作られたら、皆さんに配信できるのではないのでしょうか。いまは、皆さんスマートフォンで検索されたりするため、印刷物でなくてもいいと思いますので予算は余りかからないと思います。図書館や公民館など、文化に関するものが分かるものが市役所のHPで見付けられると早いのではないかと思います。それぞれにすでにHPがありますので、そこから調べられるということもあると思います。

確かに、芦屋の方は歩きで来られる方が多いということで、車で来るときは美術館の駐車場は割と空いているため利用させていただいていますが、バスも割と便利だかなと思います。歩きも春や秋など気候がいい時は、芦屋川から30分ほど歩いても非常に景観のいい場所なのですがすがしい感じで歩けると思います。

ぜひ、岡委員がおっしゃる通り、他府県から来た人達にもわかりやすいようにしていただくと便利かなと感じます。。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

まずはバス関係についてですが、本市は直営のバス運行事業を行ってないので、バス事業者が市内をバスで循環しており、市内の移動手段の一つとして運営していただいております。今回のご意見につきましてはバス事業者の協力がどこまで得られるかというところですので、バス事業者には要望してみたいと思います。

また、バス停の方にももう少し表示があれば、大きく書いてあればというご意見がありました。これについても要望していきたいと思います。

マップにつきましては、現在、近代建築のハンドブックなど、文化財に特化したハンドブックはあるのですが、文化施設のハンドブックは作成していないと思います。行政が文化施設だけのハンドブックを作ろうとすると、これも載せてあれも載せてと結局何の特色もないマップになりがちですが、いま課題をいただきましたので、何か工夫ができないか、他のマップを活用させてもらって「文化施設編」のようなものがないか検討させていただきたいと思います。

(藤田委員)

事業No.99に関してですが、先ほど西本委員や事務局からも外国語、母語を大切にという話がありましたが、ここの絵本ですが、これは日本語で書かれたものかと思いますが、外国語で書かれた絵本もたくさんあります。そういったものを図書館に置いていただき、図書館のHPで外国語の絵本という項目で載せていただけたら、海外からいらしているお子さんたちも喜ばれるのではないかと思います。

絵本というのは本当に夢があって、対訳も面白いです。野ばらの村の物語の英語は、大学生も読めるような難しいものですが、そういったものから触れていくのも、日本人のこども、外国人のこども共に喜ばれると思います。他の言語もありますが、一番英語が親しみやすいと思います。

また14頁の読書のまちづくりの推進、事業No.125の小学生の本の部屋については、定員を満たさなかったということで、これはとても残念なニュースです。ピーターラビットのその世界だったら私なんかはわくわくしてしまうんですが、広報活動はどうだったのか、募集は何人ぐらいされて、実際に何人が参加したのか、場所などについてお尋ねしたいと思います。日曜日といっても、最近小学生も、塾やスポーツクラブと忙しく過ごしているようなので、こういったイベントには参加しにくいのかもしれないですが、このニュースは残念でした。

(事務局)

ピーターラビットのイベントについては、所管課の方から詳しい聞き取りができておらず、今のところここに書いてあることしか把握できていない状況ですので、また確認をさせていただきたいと思います。

絵本につきましては、図書館にも、何か国語か色々な海外の絵本がございます。図書館のホームページより蔵書検索が容易にできるようになっております。多くはありませんが、市立潮芦屋交流センターには、海外の絵本を含む図書がその場で手にとって読んでいただくことができます。当該施設では日本語教室や母語教室も開催しております。

(加藤会長)

ありがとうございます。

議題2「市政モニターアンケート実施結果について」事務局より説明をお願いします。

<企画部国際文化推進室長より資料2説明>

(加藤会長)

ありがとうございました。有効回答率90%というのはすごいと思いました。普通のアンケートでは、50~60%いかないものですが、90%というのは、どうやってこれだけ回収されたのでしょうか。工夫をされたのですか。

(事務局)

今回のアンケート調査は、予め市から年間数回のアンケートに対する回答を依頼している登録制の市民100人によるアンケート調査です。そういう意味では回答率は比較的高めですが、それでも内容や設問によって、自由記述が多いと回答率は下がってしまうと聞いていましたので、90%前後を保つように担当所管と設問や選択肢について協議して高回答率を維持できるようにしました。

(加藤会長)

では、委員の皆様からご意見がありましたらお願いいたします。

(岡委員)

とにかく行政にとっても大変いいし、回答も細かなデータが集まっていて、本当にいいアンケートだと送られてきたものをみてそう思いました。これを参考にして、色々と根拠とされたらいいと思います。

(事務局)

枝元先生にたくさんのご協力と設問に関する細かいアドバイスをいただきました。その結果と思います。ありがとうございました。

(枝元委員)

時間が押している中で申し訳ないのですが、前回の会議で私が余計なことを、質的調査を入れるべきだと言ったせいで、事務局の方を巻き込み多大なご迷惑とお手数とご苦勞をおかけしたという自覚を持っています。この場で改めまして、お詫び申し上げたいのと同時に、ご苦勞をおかけした甲斐がすごくあったなと思っております。

これの元々の発端は何かというと、文化といったときに、映画や祭などのイベントに参加したから文化的なんだという問いではなく、そもそも生活の中に文化があるのではないか、それがたまたま映画やお祭りや芸術という形で発動しているのではないかと、というぼんやりとした予測を基に、ではいったい人々の暮らしの中に何があるのだろう、意識はどうなっているのだろうというのを確認してみたいというところから始まりました。

質的調査の中でも、半構成法によっていきながら、自由記述でナラティブアプローチのようにしていきました。100人規模だと思っておらず、多くても30人程度かなと思っていたため、ものすごく迷惑をかけたと後で反省していましたが、先ほど申し上げましたように、人々のお気に入りの場所や余暇の過ごし方、どういった活用や想いをしているのかが赤裸々に語られており、非常にイメージが付きやすいものになったと思っております。岡委員がおっしゃったように、これを根拠としながらいろいろなものへと派生させていけるという意味ではよかったかなと思っております。以上、補足とお詫びでした。

(加藤会長)

生活文化に関しての、広範囲にわたるアンケートで、非常にいい結果が出ていると思いました。

他にご意見はありますか。なければ次に移りたいと思います。

議題3「次期文化推進基本計画策定に関する市民アンケート（案）について」事務局より説明をお願いします。

<企画部国際文化推進室長より資料3説明>

(加藤会長)

では、委員の皆様から何かご意見はございますでしょうか。

(枝元委員)

設問の中の下線が引いてある「1つ」という表現で、アラビア数字と漢字とが混ざっていますので、どちらかに統一したほうがいいのではないかと思います。

(事務局)

誤字がありまして申し訳ありません。

また、同設問の「13. その他」は「15. その他」が正しいため修正いたします。ご指摘のあったアラビア数字のところも修正いたします。ありがとうございます。

(加藤会長)

他にございますでしょうか。

無いようであれば、本日の議題は以上となりますが、事務局から何かありますか。

(事務局)

次回の開催は2月もしくは3月を予定しております。進捗状況によりましては、時期の変更の可能性もございます。その際は早めに日程の調整等連絡をさせていただきますので、引き続きよろしく願いいたします。

また、議題につきましては「市民アンケート調査結果の報告」など、次期計画の策定に関してを予定しております。事務局からは以上となります。

(加藤会長)

以上をもちまして、本日の会議を閉会します。

ありがとうございました。